



Title	大阪大学看護学雑誌 4巻1号 編集後記
Author(s)	中尾, 由紀子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1998, 4(1), p. 82-82
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/56713">https://hdl.handle.net/11094/56713</a>
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 編集後記

急速に迫り来る高齢化社会に対応すべく、医療・看護を取り巻く環境は、大きな変換期を迎えていた。1997年12月に、公的介護保険制度は、参院をも修正案追加で可決を見た。厚生省は、2000年4月の実施に向けて本格的な体制作りに着手している。ケースマネジャー、介護認定審査員、在宅看護の充実等、看護職に求められる内容は非常に大きい。中でも特に、在宅での看護の展開は、看護婦個々人の人間性はもとより、臨床実践能力が大きく求められる。今後の看護の基盤は、従来の施設内から需要の大きい施設外へと動き、専門職として充実期を迎える躍動感を感じているのは私だけでしょうか？

1998年4月には、保健学科看護学専攻の第一期卒業生を看護婦に迎える。お互いのコミュニケーションを良くし、新しい風を吹き込んで貰いたい。新鮮な風を通して、教育と臨床サイドの交流が深まり、さらなる看護の発展を期待したい。

さて、第4巻も第3巻に引き続き多くの方々のご努力により発刊することができました。今回は、残念ながら臨床からの研究投稿がありません。アンケート調査に見られたように、臨床看護婦からの看護研究へのささやかな芽が、大きくなり実を結ぶことを願ってやみません。

(編集委員 中尾由紀子)

### 編集委員会

委員長	早川和生 (大阪大学医学部保健学科地域看護学講座)
委員	安藤邦子 (大阪大学医学部附属病院看護部) 中尾由紀子 (同上) 谷浦葉子 (同上)
	小笠原知枝 (大阪大学医学部保健学科基礎看護学講座) 荻野敏 (大阪大学医学部保健学科成人・老人看護学講座)
査読	福岡富子 (大阪大学医学部附属病院看護部) 中山弥生 (同上) 江川隆子 (大阪大学医学部保健学科成人・老人看護学講座) 原田徳蔵 (大阪大学医学部保健学科母性・小児看護学講座) 高木洋治 (同上) 三上洋 (大阪大学医学部保健学科地域看護学講座)